

## 答辞

やわらかな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。この良き日に、盛大な卒業式を挙げてくださり、まことにありがとうございます。先生方をはじめ、たくさんのご来賓、ご父兄の皆様にご臨席いただき、卒業できることを、卒業生一同を代表し、厚くお礼申し上げます。

思い起こせば3年前、私たちは、まだ名も知らぬ仲間とともに、これから始まる新しい生活への大きな期待と、それと同じくらい大きな不安を抱き、この会場にいました。

北海道から兵庫まで、住んでいるところも、方言も違う人たちが集まった私たちのクラスは、個性的なクラスでした。方言の理解に苦しむこともありましたが、お互いに言葉の意味を教えあうことで理解を深め、楽しく生活することができました。そのおかげで私の地元の方言である東濃弁に加え、兵庫から来た藤井くんに教わった関西弁、そしてこの北海道で鍛えられた北海道弁の三つの言葉を話せるようになりました。

そんな高校生活の中で一番印象に残っているのが、生徒会活動です。この日高高校に入学し、生徒会長という言葉に惹かれ、生徒会選挙に立候補しました。しかし私は、1・2年生での生徒会役員の経験がなく、どのように動けばいいのか全く分からないまま、活動が始まりました。初めはうまくいかないこともありましたが、高寿園ボランティアやこもれび祭など、様々な行事を通し、生徒会長としての自覚を徐々に持つことができました。生徒会長としての私を支えてくれた、生徒会メンバーには、感謝しています。生徒会活動を通し、見通しを持って動くことの大切さを学ぶことができました。

もう一つ、印象に残っているのは、昼間の「日高町産業学習」でのスキーや登山、ラフティングなどの体験活動です。学年に関係なく様々なことを共有し、心も身体もたくましく成長することができました。そのなかでも、福祉クラスで受講した「介護初任者研修講座」では、長い期間の講習を受け、継続する力をつけることができました。たくさんを経験し、人間として大きく成長することのできた三年間になりました。

私たち十名は、このほかにも、たくさん思い出を作ることができました。全く違う環境で生活していた人たちが、寮生活や学校生活を通し、同じ目的を持つことができたからだと思います。私自身、慣れない生活で大変な時期もありましたが、日高高校の一員として中身の濃い学校生活を送ることができたこ

と、人間として成長させてくれた日高高校のことを誇りに思います。

卒業にあたり、後輩の皆さんに伝えたいのは、「この生活は今しかできない」という一言です。何かに集中して取り組める環境は他にないと思います。自分に甘えず、一年後、二年後に「やりきった」と思って、この卒業式場に立ってほしいと思います。

最後になりましたが、こうして私たちが無事に学校生活を送ってこられたのは、先生方をはじめ、事務職員・産学職員、そして日高高校に関わる多くの方々のご支援のおかげと感謝しております。この場をお借りして、感謝申し上げます。卒業後も、変わらずご指導していただけると幸いです。よろしく願いいたします。さらに三年間、私たちの成長をたくさんの不安や心配を抱えながら、温かく見守ってくれた家族へ。本当にありがとうございました。本日、卒業式を迎えられたのも、ひとえに家族のおかげと、感謝してもしきれません。卒業後もまだまだ迷惑をかけると思いますが、今後も私たちのことを温かく、時には厳しく見守り続けてください。

結びになりましたが、この日高高校がこれからも、この地域とともに歴史を刻んでいかれることをお祈りし、答辞とさせていただきます。本日はありがとうございました。

令和二年三月一日

卒業生代表 水野 遥稀